



今年度の「あゆみ」を読み返してみると、「異年齢保育」についての記事が目立ちます。岩根保育園の長い歴史の中で初めての試みであり、少子化の進む時代の要請でもあると思っています。3歳以上の子どもたちの年齢ごとの育ちに加え、年齢差による育ちも大切にしたいという願いを具体化したいという思いもあります。今月から年長児は卒園に向けての活動が本格化していきます。0歳児組から保育を受けた子どもたちも少なくありません。保育園で過ごし、保育園で学び、保育園で成長してきた子どもたちです。みどり、きいろ、あお組からそれぞれ卒園していく初めての年になります。同じクラスの年中、年少児の思いも大切にしたいと思います。また、年長児と0歳児、1歳児、2歳児組の子どもたちとの交流もこれまでと同じようにしていきたいと思っています。先月末に「思い出をつくろう」という行事として年長児が分かれて3歳未満児のクラスで過ごしました。その時の様子を1歳児組の保育日誌から紹介します。 園長 平野弘和

〈2月21日 思い出をつくろう初日〉

今日から「思い出をつくろう」が始まった。きいろ組の年長児がちゅうりっぷ組の部屋に来てくれると、不思議そうな表情をしている子が多かった。「年長のお兄さん、お姉さんがみんなと遊んでくれる」と話した。一人ずつ自己紹介をしてもらった後、戸外へ出る準備をした。年長児にお手伝いをお願いすると、靴下を履かせてくれたり、ジャンパーを着るのに手を貸してくれたり手伝ってくれた。ふだん自分で履ける子も今日は履かせてもらって嬉しそうだった。戸外では手をつないで歩いたり追いかかけっこをしたりして楽しそうだった。Sは兄と過ごしていたが、ずっと一緒にいるわけではなく、他の年長児とも遊んでいた。兄も弟以外の子にも優しく接しながら遊んでくれていた。部屋に戻ると、牛乳を注ぐことをお願いした。とても上手にしてくれて嬉しく思った。年長児が帰った後、Hが「お兄さん、お姉さん、帰っちゃったね。」とぼつりと言った。「いっぱい遊んでもらってよかったね。「明日はあお組のお兄さん、お姉さんが来てくれるよ。」と話すと、嬉しそうに笑っていた。楽しみにしていることが伝わってきた。

〈2月23日 思い出をつくろう最終日〉

みどり組の年長児がちゅうりっぷ組の部屋に来てくれた。一緒に戸外に出る準備をしてもらい園庭で遊んだ。年長児がフープを地面に並べて置き、ケンケンパができるようにしてやって見せてくれた。ちゅうりっぷ組の女の子二人が集中して見ていた。二人にはまだ無理かなと思いながら様子を見守ることにした。二人は想像していた以上にフープからフープへ両足跳びで移動することができていた。「上手だね。」と声を掛けると、二人とも得意げに笑っていた。年長児の二人はケンケンパ、ちゅうりっぷ組の二人は両足とびを繰り返しても楽しそうだった。ケンケンパが上手にできる年長のお兄さん、お姉さんを間近で見て、ちゅうりっぷ組の二人は「自分もやってみたい」という気持ちになり、良い刺激を受けたのだろう。3日間の「思い出をつくろう」を通して、今までほとんど関わりを持ったことのない年齢の子ども同士が自然に交流することができた。年齢の離れた年下の子とどのように接してよいのか戸惑う子もいたが、優しく声を掛けて遊んでくれた姿をたくさん見て、年長児の成長を改めて実感することができた。お世話してもらったり、一緒に遊んでもらったりしてちゅうりっぷ組の子どもたちも楽しそうだった。子どもたちの笑顔をたくさん見るすることができた。